

## —岩手県—

## 宮古港と室蘭港を結ぶ新たなフェリー航路の開設について

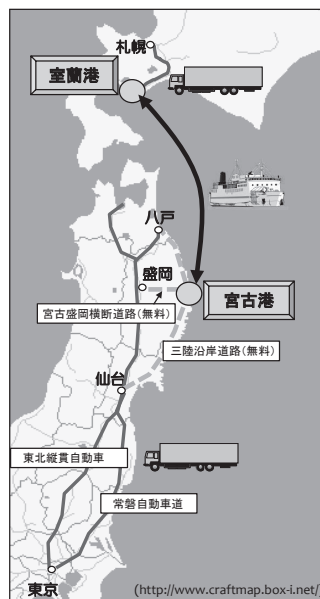
## 1. はじめに

6月22日、宮古港と室蘭港を結ぶ、岩手県初のフェリー航路が誕生した。第一便の出港には、多くの市民が駆けつけ、新たな船出を喜び合った。

本県では、東日本大震災津波で大きな被害を受けた久慈・宮古・釜石・大船渡の重要4港湾を対象とした「岩手県重要港湾利用促進戦略」を平成25年3月に策定し、震災復興の取組みと併せて、港湾の利用促進に努めてきた。沿岸のほぼ中央に位置し、背後に観光資源が豊富な宮古港は、フェリー航路誘致に向けて動き出したところ、川崎近海汽船株式会社から航路開設の提案を受け、平成28年3月に正式決定となった。このため、宮古市と関係者39団体が構成する「宮古港フェリー利用促進協議会」が設立され、岩手県内をはじめ、北海道・東北エリアや首都圏において航路周知セミナーやイベントなどを行い、本フェリー航路の利用促進に取り組んでいる。

## 2. 期待される効果

フェリーの就航地として宮古港が選ばれた大きな理由は、復興道路等の整備である。三陸沿岸道路(仙台～八戸、359キロ)と宮古盛岡横断道路(100キロ)の全線開通後は、宮古・仙台間は片道約3時間、宮古・盛岡間は片道約1時間15分で結ばれ、宮古港から県外、県内陸部の主要都市へのアクセス向上が図られる。しかも、復興道路等は一部区間を除いて高速料金がかからないうえ、三陸沿岸は積雪が少な



貨物輸送ルート(想定)

く冬季の安定した輸送が可能であり、万が一、自然災害や事故による交通規制があっても、内陸部を通るルートもあるため、物流面で低リスク、低コスト化を図ることができる。また、乗船時間は10時間でトラックドライバーの休息時間が十分に確保できることから労働環境改善の観点からも、理想的なルートになる。

観光面では、北海道の新たなエリアからの交流人口増加が予想され、商工・観光などの関係団体においては、新たなビジネス展開の創出も可能となる。フェリー航路開設によって、輸送ルート・観光ルートの選択肢が広がり、製造業や観光業など、様々な地域産業の活性化につながることを期待される。



フェリーを見送る市民ら

## 3. おわりに

東日本大震災津波から7年が経過し、岩手県東日本大震災津波復興計画も第3期実施計画「さらなる展開への連結期間」を迎える中、フェリー航路開設は、地域の明るい話題として、各方面から多くの期待が寄せられている。宮古港が結節点となり、「人」と「物」の新たな流れが、被災した三陸地域に留まらず、岩手県全体に広がるように、引き続き関係団体とも連携して、利用促進に取り組んでいきたい。

(岩手県 沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター  
河川港湾課 小野寺 哲)